



井上 泰秋（本名 泰秋）（芸術）

昭和16年（1941年）11月1日 生
（満83歳）

【写真は本人提供】

井上氏は玉名郡南関町出身。国指定伝統的工芸品の小代焼を代表する陶芸家で、60年以上にわたり作陶を行ってきた。県工業試験場窯業部で陶芸の基礎を築いたのち、京都で京焼の大家 森野嘉光氏に師事、その後、小代焼を再興した健軍窯の近重治太郎氏に師事した。陶芸のほか茶道や絵画についての学びを重ね、技量を高めた。熊本市で肥後焼窯元として独立した後、荒尾市府本に窯を移築し、新たに「小代焼ふもと窯」として開窯。以来、小代焼を育んだ自然と伝統を大切に、優れた造形・施釉技術と薪窯ならではの味わいのある優れた作品を作り出し、日本陶芸展外務大臣賞、熊日総合美術展熊日賞グランプリ、西日本陶芸美術展内閣総理大臣賞など数多くの賞を受賞している。

また後進の育成や小代焼の歴史研究にも積極的に関わり、創作の傍ら多くの弟子を育成し、小代焼では一先窯 山口耕三氏・中平窯 西川構生氏・太郎窯 福田安氏（故人）等多くの後進を輩出し、小代焼の振興に大きく寄与した。平成14年に発足した「小代焼窯元の会」では、代表として12の窯元をまとめあげ、国の伝統的工芸品指定を受ける上で大きな役割を果たした。現在も2代目尚之氏や弟子とともに作陶を行い、意欲的に作品を発表している。

また小代焼窯元の会顧問（初代会長）、日本民藝協会会長、熊本民藝協会会長、熊本国際民藝館顧問（前館長）、熊本県文化懇話会常任世話人、熊本県美術家連盟役員など様々な役職を務め、熊本県の文化の発展に寄与している。

これらの功績により熊本県ふるさと顕彰、くまもと県民文化賞、熊本県芸術功労者賞、熊日賞など多数の賞を受賞している。

昭和32年 熊本県工業試験場窯業（陶芸）部入所

昭和35年 京都で森野嘉光に師事の後、小代焼健軍窯に勤める

昭和40年 熊本市黒髪にて肥後焼窯元として独立、開業（24歳）

昭和43年 荒尾市府本に窯を移築、小代焼ふもと窯と改名

昭和46年 日本陶芸展入選、以後、各種公募展にて入選・入賞多数

平成24年 叙勲「瑞宝単光章」受章

令和5年 日本民藝協会会長就任